

第2学年 国語科学習指導案

教科等	国語科	単元名	そうだんに のってください	本時	全7時間抜きの5時間目
学級	2年1組	授業者		教室等	2階 2年1組教室

<本時の指導>

<本時のねらい> 考えを付け足したり、質問したりして、途切れないように話し合いをすることができる。	
	<p>主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T 予想される児童の反応:C</p> <p>○研究主題にせまる6つの手立て □…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD</p>
導入	<p>1. 前時を振り返り、めあての確認をする。【決定】 T: 前時の話し合いで、何を大切にして話し合いをしましたか。 C: もっと聞きたいことがあるときに、質問しました。 C: 考えについて、理由を聞きました。 T: 前時の話し合いで、よい話し合い場面があったので、一緒に確認していきましょう。</p> <p>考えをつけくわえたり、しつもんだりして、話し合おう。</p>
	<p>□前時までに確認した話型を整理して提示しておく。</p> <p>○活用場面の設定 前時の話し合いから、本時のめあてに沿った場面を見付け、そのよさを共有することで、より具体的なイメージをもって、話し合い活動に臨めるようにする。※共有化</p>
展開	<p>2. 相談事に対しての自分の考えを確認する。【発見】 T: 自分の考えを確認しましょう。</p> <p>3. 相談事について、3人組で話し合い①を行う。【対話】 T: 考えを付け足したり、広げたりしながら、今日もよりよいアイデアを見付ける話し合いをしましょう。</p> <p>4. 話し合いを振り返り、良かった点を伝え合う。 【決定】 T: 話し合いの中で考えを付け足したり、広げたりすることはできましたか。良かった点を伝え合ひましょう。 C: △さんは、考えを付け足していました。 C: 「○さんは、どうですか？」と△さんが言っていました。</p> <p>5. 3・4と同じ流れで話し合い②をし、振り返る。【対話】</p> <p>6. 個人の振り返りをし、全体共有をする。【決定】 T: 今回の話し合いで、どのようなことができましたか。次に頑張りたいことは見つかりましたか。撮影した動画を見て、ワークシートに書きましょう。 C: 1回目の話し合いで、3つアドバイスを伝えられました。 C: いろいろなアイデアが出て、考えが広がりました。</p>
	<p>□必要があれば、考えの書き換えや付け加えをするように伝える。</p> <p>○話題設定の工夫 話し合いの話題（相談ごと）は、学校内のことに限定し、誰でも解決策を考えられるようにする。また、解決策を事前に書いておき、自分の考えを明確にしておく。※焦点化</p> <p>○意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定 興味・関心がもてるように、事前に担任が相談事を把握し、異なる相談事になるようにグルーピングする。※焦点化</p>
	<p>☆互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（観察・発言・動画） □振り返りを共有することで、話し合うことのよさや話をつなぐ楽しさを感じられるようにする。 ☆友達のととの相違を受け止め、話し合いのよさを実感している。（発言・ワークシート）</p>
終末	7. 次時の見通しをもつ。

【板書計画】

○今日のふりかえり

・一つの考えだけでなく、「〜もどうかかな。」とたくさんの方の考えをつたえることができた。

・考えをつけたしてくれたおかげで、そうだんごとのかけつけさくを見つけることができた。

○本日のながれ

①自分の考えを見直す。

②タブレットの用いをする。

③話し合う。（三分間）

④グループで話し合いをふりかえる。

かんがえをつけたして、ひろげよう。

くもあるよね。

くはどうかかな？

○話をつなぐコツ

・くは、どうっ。

・わたしは、くと思っ。

・それはどういっ。

・それはどういっ。

・〇〇ってどういっ。

・もっとかわしく教えて。

・〇〇さんはどう思っ？

○研究主題にせまる6つの手立てとの関連

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

話題設定の工夫

子どもたちの日頃の困りごとについて想起させる「困っていることを相談しよう」という話題を設定する。相談内容については、学校の中での事柄に限定し、より具体的な場面を想定しながら話し合いを進めさせることで、意見を出しやすくする。また、事前に相手の相談内容について自分の考えを明確にさせておくことで、安心して話し合いに臨めるようにする。

(2) 「学び合う」ための手立て

意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定

相談者と相談にのる人の2つの役割をローテーションして、様々な立場が経験できるようにする。メンバーに関しては、事前に個人の相談ごとを担任が把握しておき、異なる相談ごとになるように3～4人の小集団をグルーピングする。これにより、様々な話題で話し合いができ、興味・関心が持続するようにする。

活用場面の意図的・計画的な設定

前時の話し合いから、本時のめあてに沿った場面を見付け、そのよさを共有することで、より具体的なイメージをもって、話し合い活動に臨めるようにする。振り返り後、即実践につなげることで、効果的な活用になるようにする。